

英米文化学会会報

第 67 号

平成 18 年 6 月 10 日



『ルーツ』の著者アレックス・ヘイリーは、テネシー州の田舎町・ヘニングの小さな家の庭に葬られている。墓参の帰り道、ヘニングからミシシッピ州を指して南に下る途中、のどかな道で出会った黒人農場主は、自慢の農場と、自宅へ続く道の撮影を快く許してくれた。あるいは南部のいくつかの大学で農学を講じたアレックス・ヘイリーの父の教え子だったかも知れないと、道々、思ってみたりした。(撮影：佐野、2006年)

目次

- 例会担当より 英米文化学会 第 120 回例会のお知らせ
- 大会担当より 英米文化学会 第 24 回大会のお知らせ
- 財務からのお知らせ
- 事務局より 会員消息・「英米文化学会規約」改定など

英米文化学会 第 120 回例会のお知らせ (担当: 小林弘理事)

上記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上ぜひご出席下さい。

日時：平成 18 年 6 月 10 日(土) 午後 1 時 00 分～6 時

午後 12 時 30 分受付開始 当日会費：100 円

場所：拓殖大学 国際教育会館 (地下鉄丸の内線 茗荷谷下車 徒歩 5 分)

発表会場：3 階 F 301 控え室：3 階 F 302

総会：午後 5 時 20 分～50 分(例会後引き続いて総会を開きます)

懇親会：H 館学生食堂 午後 6 時～8 時 会費：3000 円

懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

< 地図を次のページに掲載しています >



拓殖大学 国際教育会館

茗荷谷(みょうがだに)駅へは「池袋」駅から地下鉄丸ノ内線4分、「御茶ノ水」駅から地下鉄丸ノ内線6分

特別講演(午後1時00分～2時30分)

「南十字星輝く空の下で 体験した戦争と異文化」

山下信二(昭和女子大名誉教授)

講師略歴

大正九年六月二六日生
 昭和十六年(1941年)三月 東京府立四中夜間中学卒業
 昭和十六年三月 大分歩兵第四七連隊補充隊入隊
 昭和十六年九月 台湾歩兵第四七連隊転属
 昭和十六年二月～昭和十七年二月 フィリピン作戦従軍
 昭和十七年三月～昭和十七年9月 ジャワ作戦従軍
 昭和十七年九月～昭和二十年七月 チモール島駐留
 昭和二十年九月～昭和二十二年二月 ロンボック島及びジャカルタ(捕虜として)
 昭和二十二年二月 広島市宇品復員
 昭和二八年三月 上智大学卒業
 昭和五三年三月 上智大学大学院修士課程修了
 昭和三二年六月 NHK 国際局報道部入社
 昭和五一年六月 NHK 国際局報道部退社
 昭和五二年四月 昭和女子大学就職
 平成八年三月 昭和女子大学退職

研究発表

1. バークリーの道具主義的科学観 (15:10 15:50)

発表 豎谷宏一(拓殖大学)

司会 加藤千博(法政大学)

2. 隔たりの間で R.S. Thomas の Iago Prytherch 詩 (15:50 16:30)

発表 永田喜文(明星大学)

司会 松下晴彦(法政大学)

小休止(16:30 16:40)

3. コミックスとユダヤ系アメリカ文学の結合

マイケル・シェイボン『カヴァリエ&クレイの驚くべき冒険』の挑戦 (16:40 17:20)

発表 河内裕二(明星大学)

司会 君塚淳一(茨城大学)

研究発表抄録

1. バークリーの道具主義的科学観

豎谷宏一（拓殖大学）

ジョージ・バークリー（George Berkeley）は一連の著作（とりわけ『人知原理論』（1710）と『運動論』（1721））の中で、自然科学を、現象の記述と出来事の予測を可能にする一種の道具と見る、いわゆる道具主義的科学観を展開した。

本発表では、彼の道具主義的科学観の中でも特に、『運動論』において見られる、科学理論を数学的仮説と見なす見解に焦点を当てる。その中で、彼のこうした科学観が、当時独自の地位を築きつつあった自然科学の存在意義を認めながらも、その目的と方法そして限界を規定しようとする、いわゆる科学批判であったことを確認する。また、現象こそが我々に与えられた全てであるとする『人知原理論』における主張が、彼の科学批判の根底においても見られることを明らかにし、科学に対する彼のこうした態度に、実証主義の先駆的思想が含まれていることを示す。

2. 隔たりの間で R.S. Thomas の Iago Pryther

永田喜文（明星大学）

R.S.トマス（Ronald Stuart Thomas）は、"gap"の詩人とも呼ばれる。現実と理想のなどふたつのものの間に横たわる隔たりを、終生問い詠い続けたためである。トマスは1942年に、中部ウェールズにある丘の過疎の村マナーヴォン（Manafon）に牧師として赴任する。その丘で働く農夫の姿から、彼の現代詩としての処女作となる"A Peasant"が生まれる。その詩に登場する農夫イアーゴ・プリザーフ（Iago Prytherch）は、トマスの初期の詩に登場する様々なウェールズ人の中で、以後、約25年もの間、唯一継続的に登場し続ける故に、最も重要な登場人物となる。プリザーフは当初、トマスにウェールズの現状を認識させ、そして同時にトマスの理想のウェールズ像と現実との間にある隔たりを埋める存在となっていく。そこで本発表では、そのプリザーフの姿を分析し論ずることで、トマスの理想のウェールズ像及びトマスの詩人としての成長について考察する。

3. コミックスとユダヤ系アメリカ文学の結合

マイケル・シェイボン『カヴァリエ&クレイの驚くべき冒険』の挑戦

河内裕二（明星大学）

マイケル・シェイボン（Michael Chabon）の長編小説『カヴァリエ&クレイの驚くべき冒険』（*The Amazing Adventures of Kavalier & Clay*, 2000）は、大恐慌後のアメリカン・コミックス創成期に活躍する二人のユダヤ系コミックス作家の物語である。シェイボンはこの作品で、これまでユダヤ系文学がまったく目を向けなかったコミックスに着目し、効果的に文学と結びつけることで、ユダヤ系文学の重要なテーマである第二次大戦・ホロコーストに新たな角度から光を当てている。また作品内に登場する「コミックス」を実際のコミックスとして出版するという意欲的な試みも行なっている。本発表では、ユダヤ系アメリカ人作家の若手で現在最も活躍の目覚しいシェイボンを論ずるとともに、コミックスと文学を結合させたこの作品の重要性や意図について考察する。

例会終了後に総会を開催します

英米文化学会第24回大会のお知らせ（担当：曾村充利理事）

標記の大会を以下の要領で開催します。

開催年月日：平成18年9月9日(土)・10日(日)

開催場所：茨城大学水戸キャンパス 茨苑(しえん)会館

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

懇親会：茨苑会館一階レストラン 費用は3,000円。

9日 14時30分受付 講演会(講師未定)、

懇親会

10日 9時30分受付 研究発表[順番未定]

1. 犯罪ノン・フィクションはいかにして可能か？

映画『カポータ』、ドキュドラマ『ララミー・プロジェクト』に見る
ドキュメンタリー表現の現在

中垣 恒太郎(常磐大学)

2. 高校英語教科書から見た The Japan Times の語彙

谷 憲治(武蔵大学)

3. アラバマの音楽性と南部の文化背景

佐野 潤一郎(創価大学)

4. 異文化教育者としてのイシューメール

スティーヴ・レッドフォード(静岡大学)

5. *Jerusalem the Golden* に見る家族像

母と娘の関係を中心に

永松 美保(九州女子大学)

6. サー・ヘンリー・アーヴィングと『ベル』

門野 泉(清泉女子大学)

* 水戸駅周辺のホテルの情報に関しては次号の会報に掲載いたします。宿泊は各自でご予約をお願いします。

財務からのお願い（担当：山根正弘理事）

年会費の納入をお願い致します。郵便振替用紙が同封されていますので、ご確認下さい。なお納入状況は、財務担当の山根(MasahiroYamane@SES-online.jp)までお問合せ下さい。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

名義人：英米文化学会

事務局（担当：大東俊一理事）より会員消息・「英米文化学会規約」改定など

1) 会員の消息 省略

2) 「英米文化学会規約」の改定と「英米文化学会倫理規定」の創設

さる3月11日の第119回例会の際に開催されました総会において、「英米文化学会規約」第六条5項の改定、および、「英米文化学会倫理規定」の創設に関して審議が行われ、以下のように決定いたしましたので、ここに公告いたします。

「英米文化学会規約」

第六条 5. 理事会は、本規約に即して内規を定めることができる。(旧)

5. 理事会は、本規約に即して諸規定を定めることができる。(新)

「英米文化学会倫理規定」

前文

英米文化学会は、広く英米文化の研究を目的とし、その正しい知識の探求と普及を通じて、社会の健全な発展を目指すものである。英米文化学会会員は、この学問研究の推進による自己啓発に努める。この目的のために以下の条項を定める。

一、査読

英米文化学会は、研究発表、『英米文化』などの、学会の名称を冠する出版予定原稿、ならびに申し込みのあった研究発表の発表要旨に対して、研究の公正を保つために査読を行うことができる。

1 査読者の選任

英米文化学会は、発表成果公開に先立ち、原稿段階で査読を行う。査読者の選任は慎重に行い、会員または非会員の中で最も該当分野で適切な研究者がこれに当たるものとする。

2 査読者への謝礼

非会員の査読者には、謝礼を支払う。

3 査読者の秘匿

査読の公正と査読者の自由な知見を守るために、査読者の氏名は公表してはならない。査読者は、自分が査読をしていることも秘匿する義務を持つ。

4 査読者の義務

査読者は、査読に当たり、厳正かつ公平に査読を行い、査読原稿に盗用などの疑義を認めた場合には、速やかにその事実を英米文化学会学術委員長に、報告するものとする。査読結果は、指定の日時までに、査読票を学術委員長まで提出するものとする。

5 査読の結果

査読の結果は、原稿、発表要旨の筆頭著者に伝えられる。査読者の指定する書き直しの指摘は、学術委員会の審議を経た後、これに従わなければならない。書き直しの指示に従わない場合、英米文化学会は、当該原稿の出版・発表を断る権利を有する。

二、著者の著作権

著者は、英米文化学会の当該担当者に原稿を渡した時点で、その著作権を英米文化学会に譲渡したものとす。

三、著者の責務

著者は、原稿に対して以下の条件を遵守するものとする。

1 他人の著作権を侵していないこと

2 他の研究者のデータを断りなく使用していないこと

3 内容が、学術的な裏づけを持ち、検証に耐えうること

4 結論・推論部分等が、社会の安寧秩序を乱すものでないこと

四、著者の責務違反に対する罰則

上記の(三)の条件に反することが分かった場合は、原稿の段階であれば不採用となり、理事会にての審

議を経て、処分が著者に下される。また、出版された後では、理事会での審議を経て、出版の取消しを含む処分を下すことができる。

五、盗用

英米文化学会は、知的財産権を重んじる立場から、研究成果の盗用には厳しく対処する。学術委員会は、学会の著作権の範囲内での出版物・原稿が以下の条件のいずれかに該当する場合に、盗用と認識する。

- 1 他人の研究論文・研究書からのレファレンスなき引用。
ただし、文学作品などの有名な言葉、台詞などは含まれない。
- 2 本文中に引用しているのに、引用記号を使用していない。
- 3 他人の発想・アイデアを、断りなく使用している。

六、盗用の罰則

盗用の疑いありと認識された時点で、当該担当理事は、理事会の開催を請求し審議を要請する。審議の場合には、査読者を秘匿した状態での査読者からの意見書ならびにその事実を示す証拠を必要とする。理事会は、非会員の査読者を別に任用することができる。理事会による審議の結果、盗用と認定されれば、(八)の罰則規定による処分が下される。

七、不品行

英米文化学会は、会員による学会内外での、反社会的行為、犯罪、差別を容認しない。かかる行いがあつた場合は、理事による事情聴取等の後に、(八)の罰則規定に従って処分が下される。

八、罰則規定

英米文化学会は、以下の種類の罰則を会員に科すことがある。

1 投稿禁止 (1年から3年)

処分が決定された時点からの年度数だけ、英米文化学会のすべての出版予定物への投稿が禁止される。この間の年度会費は、先払いとし、処分発表の日から、1ヶ月以内に徴収される。

2 退会勧告

処分が決定された時点から1ヶ月以内に、自著による退会届を提出せねばならない。自主退会の事実のみが会報に掲載される。従わない場合は、除名処分とされる。退会勧告を受けての退会者は、他の自由の自主退会者とは異なり、復帰入会は認められない。

3 除名処分

除名された場合は、即座に会員資格を喪失する。除名による退会であるという事実は、会報に掲載される。

4 掲載取消し

盗用と認定された論文等は、掲載の取消しを行う。掲載の取消しは、『英米文化』に公告される。この処分は、学会の力の及ぶ範囲での取消しとし、すでに収蔵されている図書館等への連絡は行われぬ。学術情報のデータベースなどへの削除依頼・通告とする。

この規定は、平成17年12月27日より発効する

英米文化学会会報 第67号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito@SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>